

250225 大分県府のデータのその後と九州の大地震の可能性について



4 日前の 2 月 21 日に、大分県府のデータの急な収束で、次のような臨時メールを出しました。

<臨時メール 第 1 報 日向灘等に大地震の可能性>

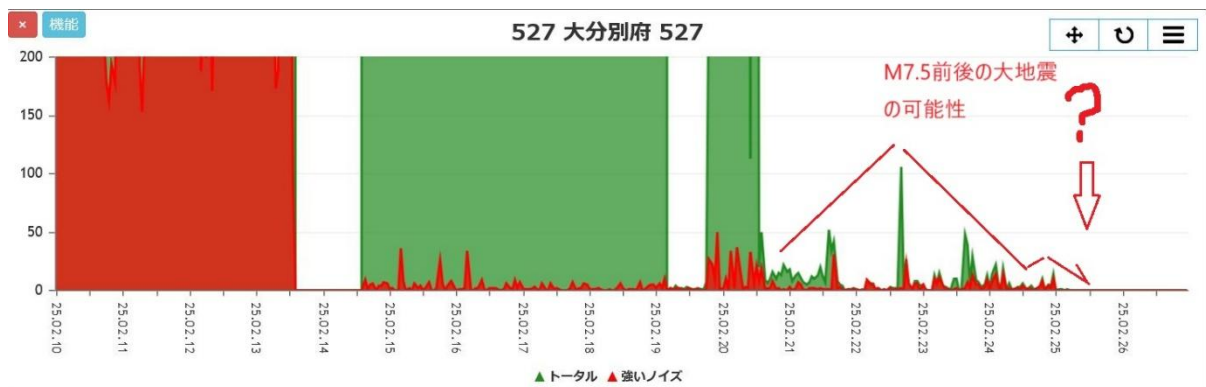
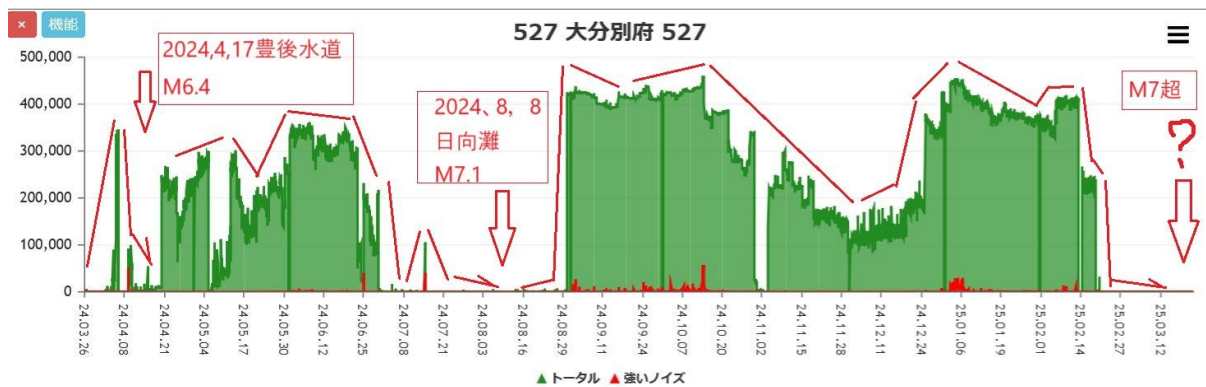
大分県府のデータが急な収束になっています。前回の収束のとき 昨年 8 月 8 日に 日向灘で M7.1 が発生しました。今回のデータも、前回と、とてもよく似た収束の形ですが データの大きさ、総量が前回 7.1 のときの倍以上なので M7 クラスの後半の規模が考えられます。同時に 佐賀の収束、四国の愛媛 宇和島の減衰、高知の高須、介良、五台山と山口柳井の同期した大きな 1 本立ちなど 周辺の多くのデータも呼応しています。とりいそぎ次の予想とします。

震源：宮崎県沖・日向灘、あるいは大分県周辺・豊後水道など

地震の規模：M7 クラスの後半

発震予想：本日 2 月 21 日から 5 日間程度

しかし本日 2 月 25 日の段階で まだ発震はありませんが、大分県府のデータは反転上昇もなく、減衰してきていて、予断を許さない状況です。



また今回の大分県府のデータの減衰について、前回昨年 8 月 8 日日向灘 M7.1 のデータの推移と比較すると 前回は①大分県府のデータが 7 月 1 日ごろ急に減衰し、その後小さいリバウンド状のデータが続き、約 1 か月後の 8 月 8 日発震している、②前回は真っ赤な壁状データが長く続いた熊本宇城のデータが直前の 8 月 4 日に急に減衰した、ということがありました。しかし今回の大分県府のデータの急な減衰では、まだ熊本宇城は減衰していませんが かわりに佐賀の長期データが減衰してきています。そのため もしこのまま発震する場合、震源が前回より北、豊後水道側になることも考えられます。またこの週末の月齢が新月な為、臨時メールの内容をそのままに日をちを変えて次のように考えます。

震源：宮崎県沖・日向灘、あるいは大分県周辺・豊後水道など

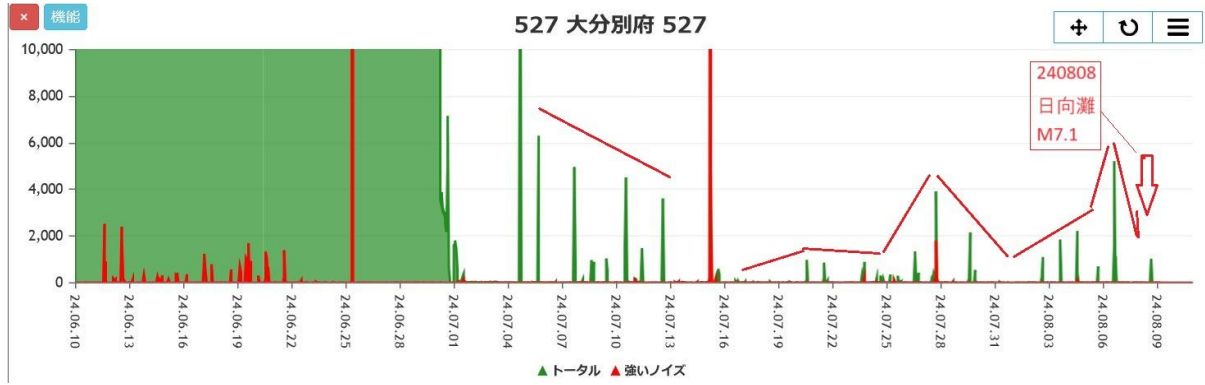
地震の規模：M7.5 前後

発震予想：本日 2 月 25 日から 5 日間程度

位置関係



参考まで 2024年8月8日日向灘 M7.1 の前兆データ



2024年8月8日日向灘 M7.1 の前兆データ 熊本宇城

